

令和 4 年 6 月 18 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K10230

研究課題名（和文）臨床看護教育における教育担当者育成のための基礎調査と教育プログラム開発

研究課題名（英文）Development of educational programs for clinical nurse educators

研究代表者

前田 留美（MAEDA, Rumi）

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・特任講師

研究者番号：60341971

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では国内の看護継続教育におけるシミュレーション教育の現状についての文献検討、造血幹細胞移植後の皮膚GVHDに対する看護師の臨床判断の調査結果、看護教育者コア・コンピテンシーを参考にし、臨床看護教育における教育担当者育成プログラム（案）を作成した。プログラムは教育ニーズの分析、インストラクショナルデザイン（研修設計法）を用いた研修設計の2部で構成されており、受講後研修設計が行えることを目指した。2施設の教育担当者を対象としてプログラムを実施し、受講者の反応は良好であった。今後はこのプログラムに臨床判断の正確性を向上させる教育担当者の介入を加える予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、日本の看護現任教育における教育担当者育成プログラムのパイロット版を作成したことである。本プログラムは教育担当者が所属施設の教育ニーズを分析し、受講者の学習準備性を踏まえた研修設計ならびに研修の評価が行えることを目標としており、2施設の教育担当者がプログラムを受講後、研修の設計・実施・評価を行うことができた。新人看護師研修が努力義務化されて以降、現任教育における教育担当者育成は質・量とも求められてはいるものの、育成機関は存在せず、現任教育担当者の自己研鑽に委ねられている状況であったが、本プログラムにより教育担当者の育成がより効率的に実施できるようになると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study involved drafting a pilot program for developing clinical nurse educators, which referred to nurse educator core competencies, a literature review on the current status of simulation education in continuing nursing education in Japan, and survey results regarding nurses' clinical judgment of cutaneous GVHD after hematopoietic stem cell transplantation. The program involved two parts: analyzing the educational needs of clinical nurses with a focus on specified nursing units and designing an educational program using instructional design. The program was conducted with the aid of educators at two hospitals, and the participants responded positively to the program. In the near future, we must consider adding more methods intervention for educators to this program to improve the accuracy of their clinical judgment.

研究分野：看護教育学

キーワード：看護継続教育 臨床判断 シミュレーション教育

1. 研究開始当初の背景

2010年の保健師助産師看護師法ほかの改正による「新人看護職員研修の努力義務化」以降、看護職者を雇用する施設等は、施設の理念に基づいて求める人材を育成するようになった。しかし教育担当者(部署等で実施される研修の企画・運営を中心となっており、直接新人看護師への指導を行う「実地指導者」への助言・指導を行う者)の育成を目的とした教育プログラムは都道府県等の看護協会が実施する研修が中心であり、その定員数は求められる教育担当者数に比べて十分であるとは言えない状況であった。また教育担当者はローテーションのため数年でその役割を解かれることが多く、教育担当者としての能力向上は個人の自助努力に委ねられている上、教育担当者として活躍する期間も限られていた。

一方で、新人看護職員研修等をはじめとした現任教育における研修は、日中の勤務時間内に組み込まれるようになってきたものの、業務量、病棟運営の関係上、時間外に開催されることも多く、夜勤明けや終業後に参加せざるを得ない、時短勤務者等が参加できない、結果として時間外労働が増加する、などの問題も残されていた。これに対し、企業等では研修等の限られた時間内で求められる能力を最大限に育成するための方法論として、「成人学習理論」を用いた研修設計、特に「インストラクショナル・デザイン」(研修設計の方法論)が取り上げられている。しかし成人学習理論そのものが1990年代に提唱され、2010年代より注目されるようになった比較的新しい理論であるが故に、教育支援へ適用させるための方法論、特に看護現任教育における実践は未だ発展途上の段階であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1)日本の特定機能病院・地域中核病院の看護現任教育における教育担当者の学習ニーズと教育責任者からの支援の実態を明らかにすること、2)NLN、WHOの臨床看護教育者コア・コンピテンシーの内容を分析し、日本の教育担当者にも共通する能力を明らかにすること、3)成人学習理論に基づいた、効果的・効率的なコア・コンピテンシー育成、ならびに教育ニーズを充足する教育プログラムを作成・実施・評価すること、である。

3. 研究の方法

1) 看護継続教育におけるシミュレーション教育の動向についての文献検討

シミュレーション教育は技術習得、急変時対応などのアルゴリズム(決められた手順)を習得することを目的とした教育技法であり、現任教育における教育技法として需要が高いと考えた。まず基礎調査として、看護継続教育におけるシミュレーション教育の動向について文献検討を行った。日本国内で2013年-2018年に発表された原著論文・事例報告で、臨床看護師を対象とした論文172件を対象とした。

2) 全米看護連盟(National League for Nursing, 以下NLN)、世界保健機関(World Health Organization, 以下WHO)による看護教育者のコア・コンピテンシーの検討

2つの看護教育者のコア・コンピテンシーを参考に、本プログラムで重点的に能力の伸展を目指す領域を検討した。

3) 「造血幹細胞移植後の皮膚GVHDに対する看護師の臨床判断」の研究を通じた臨床判断能力向上のための教育的介入の検討

看護現任教育における教育技法としてシミュレーション教育が求められると考えたが、シミュレーション教育のもう一つの目的として「臨床判断能力の向上(シチュエーション・ベースド・トレーニング)」がある。臨床判断能力の向上に関連する要因を検討するため、造血幹細胞移植後の皮膚GVHDに対する看護師の臨床判断についての調査を行った。

対象は日本骨髄移植推進財団移植認定病院(168施設218病棟)に勤務する、病棟・外来看護師、がん看護専門看護師、小児看護専門看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師を対象とし、皮膚GVHD事例に対する看護師の臨床判断の正確性とその関連要因を問う質問紙調査を行った。

4) 臨床看護教育者育成プログラムパイロット版の実施

臨床看護教育者育成プログラムのパイロット版を作成した。パイロット版は対象者の教育ニーズの分析、企業等の研修設計に用いられている「インストラクショナル・デザイン」(研修設計の方法論)を用いた研修設計の2部で構成されており、施設・部署独自の教育ニーズを充足する研修設計・実施・評価が行えることを目的とした。

パイロット版を用いた教育者を対象とした研修を 2 施設で実施した。研修の対象者は 2 施設で合計 12 名であり、そのうち希望のあった 2 名については研修の実施・評価までフォローアップのための個別面接を行った。

4. 研究成果

1) 看護継続教育におけるシミュレーション教育の動向についての文献検討

最も多く実施されていたのは急変時対応、次いで災害時訓練であり、看護職が主導する多職種連携シミュレーションが多数実施されていた。これらのシミュレーション教育は、施設特性を踏まえた急変時・災害時対応を検討・確認することを目的として実施されており、施設の特性を踏まえたものが求められており、施設の教育ニーズを分析し、独自に学習目標を設定したプログラムが求められていることが分かった。

一方で教育の評価指標は施設独自のものが作成・利用されており、縦断的に効果測定が行われた研究は見当たらなかった。日本語版の標準化された評価指標は見当たらず、エビデンスに基づく教育実践・研究が行われているとは言い難い現状が明らかになった。

2) 全米看護連盟 (National League for Nursing, 以下 NLN) 世界保健機関 (World Health Organization, 以下 WHO) による看護教育者のコア・コンピテンシーの検討

検討の結果、WHO が提唱する 8 つの領域のうち、特に「1.成人学習の理論と原理」「2.カリキュラムデザインと実装」「7.モニタリングと評価」に重点を置いた教育担当者育成プログラムを作成する、という方針を決定した。

3) 「造血幹細胞移植後の皮膚 GVHD に対する看護師の臨床判断」の研究を通じた臨床判断能力向上のための教育的介入の検討

質問紙 3,022 部を配付し、合計 237 部を回収し、うち 216 部を分析対象とした。対象者は看護師経験年数 11.8 年、造血幹細胞移植看護経験年数 5.4 年、病棟・外来看護師が最も多く 158 名 (74.9%) であった。所属施設の年間同種移植件数は「10 件未満」103 名 (47.7%) が最も多く、「20 件以上」は 57 名 (26.4%) であった。

皮膚 GVHD の症状について正確な臨床判断を行っていると考えられる者は半数以下であり、判断の正確性に関連すると考えられる病態生理学的知識、看護師経験年数、造血幹細胞移植の看護経験、ケア経験の有無、認定・専門看護師資格とのいずれとも統計学的に有意な関連はなかった。

臨床判断の正確性の向上には、知識や情報の関連づけ、分析が重要であるという Tanner の臨床判断モデル (Tanner, 2006) が支持され、臨床判断の正確性向上のためにはシミュレーション教育を実施する際に、教育者によって知識や情報の関連づけ、分析に対する支援が不可欠であること、教育者の教育実践の質を向上させる必要があると考えられた。

4) 臨床看護教育者育成プログラムパイロット版の実施

パイロット版は実施する施設の希望により、時間・日数を調整して実施した。A 施設 1 名の対象者には対面もしくは遠隔による個別面接形式で 2021 年 3 月～2022 年 5 月まで実施した。A 施設の対象者は造血幹細胞移植病棟に新規に配属された新卒・異動した看護師を対象とした移植看護を学ぶ研修を設計し、教育ニーズの分析に多くの時間を割いたため合計 20 回ほどの面接を実施した。最終的に e ラーニングと知識の定着を確認するテストを含む研修を設計・実施し、15 名の研修参加者全員が学習目標に到達したことを確認した。研修参加者からはポイントを押さえた効率良い学習ができたこと好評価を得た。B 施設 11 名の対象者は所属部署での急変時対応を目的とした研修を設計したため、教育ニーズ分析は希望者のみ個別に対応することとし、2 時間×3 回にわけてパイロットプログラムを実施した。1 回目・2 回目でインストラクショナル・デザインを用いた研修設計を学び、設計した研修を実施した後、3 回目で実施した研修の評価を行った。

今回のパイロットプログラムではニーズ分析、インストラクショナル・デザインの習得でかなりの時間・労力を要することが予測されたため、臨床判断の正確性を向上させるための教育的介入を十分に含めることができなかった。今後はこの教育プログラムを継続して実施してゆくとともに、プログラムに臨床判断能力を向上させる教育方法を取り入れること、受講者の教育効果、ならびに臨床実践への転移を測定する方法を検討していく必要があると考えられた。

本パイロットプログラムを受講した 2 施設 2 名の設計した研修とその評価については、2022 年度に実践報告として学会発表を行う予定である。

参考文献：

Tanner, C.A. (2006). Thinking Like a Nurse: A Research-Based Model of Clinical Judgment in Nursing. *Journal of Nursing Education*, 45(6), 204-211. DOI:10.3928/01484834-20060601-04

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Maeda Rumi, Obama Kyoko, Tomioka Akiko, Akagawa Junko, Maru Mitsue.	4. 巻 8(2)
2. 論文標題 A survey of accuracy of nurses' clinical judgement of cutaneous graft-versus-host disease in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 NURSING OPEN	6. 最初と最後の頁 646-655
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/nop2.669	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 前田 留美, 徳山 薫	4. 巻 30(12)
2. 論文標題 「学習目標の明確化」は, 新人看護師と教育担当者に何をもたらしたのか 効果的で・効率よく・魅力ある 部署別研修を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 1094-1098
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 有園珠未, 山下直美, 梶谷真紀子, 藤波景子, 前田留美
2. 発表標題 ICUにおける急変時対応能力の向上と若手リーダーの役割能力向上を目的としたシミュレーション研修への取り組み
3. 学会等名 第2回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 前田留美, 徳山薫, 藤波景子, 緒方泰子
2. 発表標題 「学習目標の明確化」は、新人看護師と教育担当者に何をもたらしたか 効果的で・効率良い・魅力的な部署別研修を目指してー
3. 学会等名 第24回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 前田留美, 内野めぐみ, 田中公二, Hong-Seok Choi
2. 発表標題 ロービジョン患者ケアを行う看護師を対象としたバーチャルリアリティ教材開発のための文献検討
3. 学会等名 第1回日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yumi Iwamoto, Rumi Maeda, Keiko Okaya.
2. 発表標題 INACSL Japan RIG Activity and the Establishment of Japanese Nursing Society for Simulation and Learning (JaNSSL)
3. 学会等名 International Nursing Association for Clinical Simulation Learning (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田留美, 岩本由美, 岡谷恵子
2. 発表標題 看護シミュレーション教育の動向についての文献検討
3. 学会等名 第29回日本看護学教育学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田留美, 山下直美, 緒方泰子
2. 発表標題 教育担当者の育成を目的とした看護師長からの支援を考えるー部署別研修を企画・運営・評価するスタッフへの個別の支援ー
3. 学会等名 第23回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 前田留美、岩本由美、岡谷恵子
2. 発表標題 看護シミュレーション教育の動向についての文献検討
3. 学会等名 第29回看護学教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yumi Iwamoto, Rumi Maeda, Keiko Okaya
2. 発表標題 INACSL Japan RIG activity and the establishment of Japanese Nursing Society for simulation and learning
3. 学会等名 2019 INTERNATIONAL ASSOCIATION FOR CLINICAL SIMULATION & LEARNING Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------